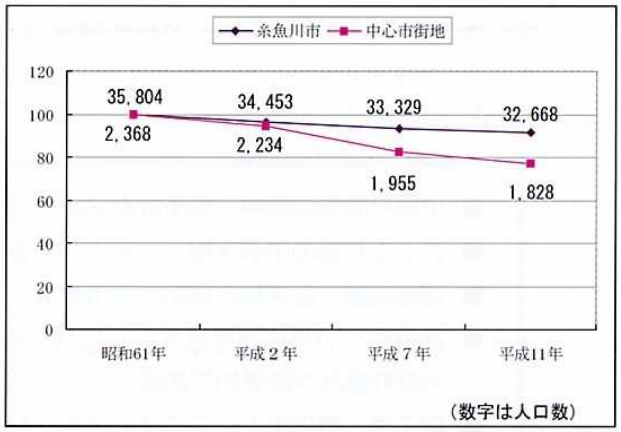
第３章　中心市街地の現況

●定住人口の減少・高齢化の進行

・市全体に比べて、中心市街地の人口が著しく減少してきている。
・高齢者の占める割合が約３０％（平成１１年現在）を占め、約３人に１人の割合で高齢者が住んでいる。
・市の平均より、高齢化の進展が進んでいる地区である。



■ 中心市街地の人口の推移
（昭和 61 年を 100 とした割合の推移）

●空き店舗、空き家等の点在

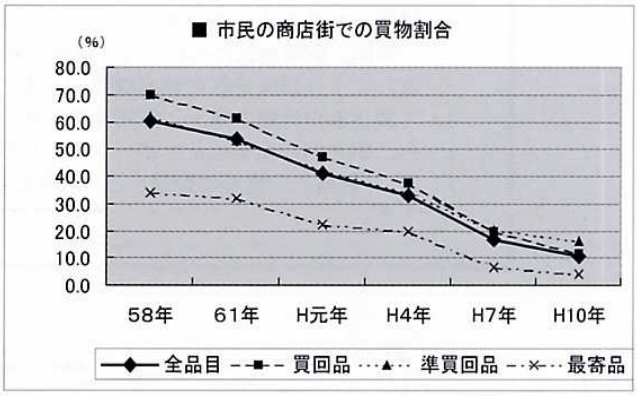
・空き家・未利用地、小規模な駐車場が点在して、多く見られ、土地利用の空洞化が見受けられる。

●歩行者環境の未整備

・所々で歩道や雁木が整備されいる連続性がなかったり、狭い幅員であるところが見られ、歩きにくい歩行者環境である。
・また、歩行者が街なかで休憩できるような公園、広場も少ない。

●商業機能の低下

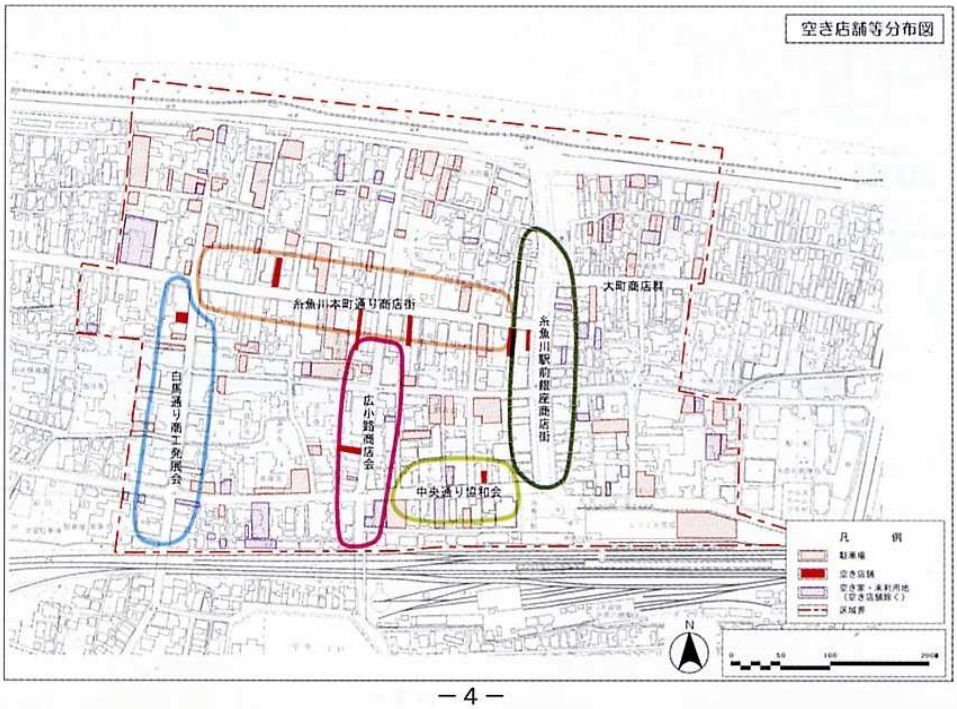
・年間販売額、従業者数、売場面積の項目において、中心商店街のシェアは低下している。
・市民の中心商店街での買物割合の減少が著しく、特に買回品では、昭和５８年に 69.9%であったものが、平成１０年には 15.5%までに減少している。



（資料：新潟県広域商圏動向調査）

●豊かな歴史・観光資源

・白馬通り（塩の道）、本町通り（加賀街道）を中心に、歴史遺産、観光資源となるものが多く存在している。



■ 住民、商業者意向（市民・商業者意向調査、ワーキンググループ会議で出された意見）

○中心市街地の資源・誇れるものについて

相馬御風記念館、雁木、街の中の酒蔵、歴史のある寺、夕日がきれいな海、通りから海が見える街　等

○住民の中心市街地の評価について

・中心市街地に行くときの主な用事は買物、銀行、飲食が主であるが、中心市街地に行く頻度は低い。
・「買物の場」「賑わい・交流の場」「文化・情報拠点」「街並み」「居住環境」として中心市街地をどう見ているか、聞いたところ、いずれの場合も不満と答えた人が多数を占めた。

○中心市街地活性化の必要性について

・中心市街地活性化の必要性は多数の人が感じており、その理由としては、街の活力、街の顔が失われるからと考える人が多い。

○中心市街地活性化のアイデア

●まちづくり・歩く街について

・歩いて疲れたときに休める場所を設ける。
・「みいちゃん通り」を歩行者優先道路にして、緑が多く、親水空間がある所にする。
・車椅子で安心して通れる歩道になっていない
・子供・お年寄りが休憩したり遊べる公園をつくる。
・ふれあいの場をたくさん設ける
・文化的スペースがない（中劇など）
・糸魚川らしさ街並みを強調し、糸魚川の顔となるものをつくる
・電線が縦横に横断し、街の景観を阻害している
・塩の道、加賀街道といった歴史の道を整備すべき.
・駐車スペースを整備し、路上駐車を減らす。
・海とのふれあいの場を整備する。

●商業の活性化について

・個店の充実（サービスの向上、専門性の高い店づくり等）が必要である。
・心遣い、あいさつ運動、こころある対応が必要
・季節感のあるデイスプレイがない
・夢ある店づくりをする
・加賀街道の面影を残す店構えと立ち寄れる雰囲気が良い
・農・漁の商品やリサイクル品等の「市」を開催する
・空店舗の有効活用を図る。
　・不足業種の店舗用地とする。
　・居住スペース、憩いの場としての利用
　・市民が活用できる情報スペース、ギャラリー、起業支援スペースなど
・夜でも明るい商店街づくり

●安心して快適に住み続けるために

・多世代が中心地に住めるようにバックアップをする（住宅供給、家賃補助）
・若者が定住するように、大学の分校、工場などを誘致する

●街なか散策（観光）について

・街なかに花・植栽を増やす。
・糸魚川の海・山の幸を提供する場を設ける。
・海浜地の復活
・ヒスイ王国館の機能充実